2011(平成 23)年 3 月 第 7・8 合併号

Yokohama
ふくしネットワーク

Yネット通信

〔発 行〕
横浜ふくしネットワーク
（代表：家田 満男）
http://ynet.d2.r-cms.jp/
〔編集責任者〕荒木和彦(松風学園)
横浜市泉区上飯田町1987
Tel 045-802-0441
Fax045-803-4963

いようしゃさんからの こえ

【横浜市松風学園 みんなの会議 より】

松風学園では、すべての利用者さんが「利用者自治会」に加入しており、毎月第４金曜日に「みんなの会議」という全員参加の会議を開いています。お話ができるかたが少なくなり、職員主導になりがちなので、なるべく利用者さんが主体的に関われるよう、日中活動の紹介をしてもらったり、その場でアンケートをとったり、お誕生月の方をお祝いして全員で歌ったりしています。

「みんなの会議」の議題としては、行事予定の発表や行事の感想を言い合うほか、自分のことをどう呼ばれたいか発表したり、建物に鍵がかけてあることについて気持ちを話したりしています。

では、利用者自治会の会長である O さん（30 代、女性）に聞いてみましょう。

ー松風学園では、ふだんどんなことをしていますか。

「刺繍。機織が楽しい。」

ー好きな食べ物はなんですか。

「お肉。デザートは、ヨーグルトとケーキ。」

ーこれからやりたいことはなんですか。

「仕事に行きたい。犬の模様のついたスカートを自分で作ってはきたい。」

ーお祭りに行くのも好きですよね。松風で作った製品を売るのはどうですか。

「売るのもやりたい。」

ーありがとうございました。

（松風学園　江原）







第五回Yネットセミナー報告

2011 年 2 月 18 日（金）、障害者スポーツ文化センター横浜ラポールで、第 5 回 Y ネットセミナーが開催されました。今回のテーマは、『伝える勇気』「やっぱり伝えてよかった！」をテーマに掲げ、昨年度とは違い紙芝居のようなスライドをした後に、利用者のインタビューを取り入れ、その後グループワークで意見交換をしてもらう形式にし、昨年度より利用者が参加できるセミナーを目指しました。

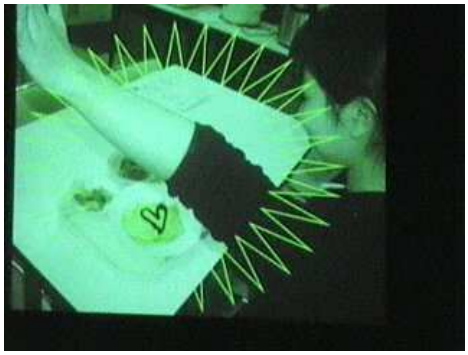




第 1 部では、昨年度と同様に東洋英和女学院大学教授の石渡和実先生に人権に関するお話をしていただきました。講演では、今回のテーマである『伝える勇気』に沿って、伝えることの大切さについてとてもわかりやすく話していただきました。



第 2 部では、はじめにグループホームに入りたい利用者のスライドを見てもらった後に、しらねの里の利用者の方にインタビューをしました。その後、食事に関するスライドを見ていただいた後、今度は、恵和の利用者の方にインタビューをしました。参加してくださった利用者の方々は真剣な表情でスライドやインタビューを聞いていました。



第 3 部は「利用者が、誰かに伝える大切さを実感してもらう」ということをコンセプトに掲げ、少人数のグループに分かれて話し合いを行いました。昨年度同様に OP の方や推進員が各々のグループにコーディネーターとして入り、利用者の方に「今、したい事はありますか？」、「これからどうしたいですか」、「それを誰に相談しますか？」という 3 つの質問をしました。その３つの質問をしたところ「ハンバーグを食べたい」「保育士になりたい」など様々な利用者の思いを聞くことができました。



今回のセミナーでは、利用者の方が様々な思いを持っていることを引率職員の方々は、気付けたと思います。その気付きを現場の職員の方に伝えていただき、支援にも活用していただきたいと思います。

人権学習会の紹介

Ｙネット推進員部会では、利用者の権利擁護について、勉強会を開催しています。

今年度は「遊園地等の公共施設や交通機関等の障害者に対する割引制度について」、「利用者の生活の場における施錠状況について」の情報交換や、「他害行為のある利用者さんに対し、人権を侵害しないような止め方について」資料を用いて学習するなど、推進員が様々なテーマを持ち寄り話し合いました。各々の職場で抱えている人権的な議論について、タイムリーに他施設の意見を伺えることは、貴重な意見を自施設に持ち帰ることができて良い刺激になっています。また、例年は隔月で開催されていたＹネット推進員部会ですが、今年度は内容が充実し、後半からは毎月開催されています。

部会の会場は各施設で持ち回り、施設の見学会を兼ねているため、お互いの施設の環境や、支援方針の違いを見学する事ができ、その意味でも大変有意義な時間となっています。施設見学にて私が印象に残っているのは、スタッフステーションの施錠についてです。自施設ではスタッフステーションに職員が居ても居なくても施錠していますが、他施設では職員が居る間は開鍵していました。

自施設では、利用者の安全や個人情報の保護の観点から当然のこととしてスタッフステーションは施錠してきました。しかし、職員が中に居る間は施錠しないことで、利用者が職員に訴えやすい環境作りの一つになっているのではと、今回の施設見学で気付かされました。

人権的な視点で他施設を見学すると、ハッと気付かされることが多くあり、自施設では当たり前のことも、疑問を持つ大切さを感じさせられました。（松風学園　北川）





ＯＰネットワーク交流研修会の参加報告

２０１０年１２月３日に、神奈川県知的障害福祉協会・人権委員会主催のオンブズマンネットワーク交流研修会が、厚木文化会館で開催されました。当日は、私と加藤理事長がＹネット代表ＯＰとして参加させていただきました。

第一部の講演では、Ａネット10年の活動からと題して、NPOあつぎ福祉ネットワーク事務局長の高橋氏が「オンブスマンネットの実践報告」、厚木精華園の柏木氏、すぎな愛育寮の手塚氏、そして七沢学園の佐藤氏から「協力員としての施設での取り組み」の報告がありました。高橋氏の話は、オンブスパーソンだけでは、施設利用者の権利侵害は防げない。施設との協働から始まる権利擁護の取り組みについて熱く語られました。オンブスパーソンは意見として挙げるべきものはあげて施設と議論する中で、施設側が支援に生かしていくことが重要である。また、利用者が自己決定できない現状があるのではないか。施設の生活の中で、会話のない生活が普通になっていないか。利用者は、どこに（誰に）訴えられるのか。また訴える機会があるのかという話が印象的でした。つまり、利用者に自己決定できる環境や機会が与えられ、支援がされているのかということだと思いました。

柏木氏からは、「１．オンブスマン協力員について」と「２．協力員の役割」、手塚氏からは、「３．施設での取り組みⅠ～すぎ会の例～」、佐藤氏からは「４．施設での取り組みⅡ～七沢学園の例～」について報告がありました。協力員として活動する中で、施設内での人権擁護への視点が強まってきたとの話がありました。

第二部のグループディスカッション（事例検討会）では、グループ毎に事例を通して話合いました。私のグループでは、３つの事例を話合いました。ことばのない方への支援や呼称についての事例では、現場の支援者間で共通理解に苦慮したり、また、利用者、保護者にもいろいろな考えもあって、難しい面もありますが、人権擁護という視点をきちんと持つことが大事だというのがグループ間での共通認識でした。

最後に各グループから話合いのまとめの報告がありました。権利侵害が多発している今こそ、ＯＰ活動が、利用者の声を聞き、問題解決を図るツールとして機能することの意義は大きいと思います。（ＹネットＯＰ　吉田千代）

Ｙネット OP　大貫若菜（おおぬきわかな）さんへのインタビュー



Ｙネットでは福祉サービスを利用する方の声を施設や行政に伝えていく権利擁護や実現のための OP（オンブズパーソン）活動が行われています。どのような気持ちで OP 活動に取り組んでいるのか？
大貫さんにインタビューを行いました。

■　なぜＹネット OP に参加しているのですか？
　ＯＰをやっている方から、お声をかけていただいたことがきっかけです。
　もともと、障害児者の権利に関しては関心がありました。

■　実際に OP 活動に参加してみていかがですか？
　施設内の実情などをお聞かせいただくことで、いろいろなことを考えるきっかけにもなります。自分自身の勉強にもなると感じています。また、職員の皆さま方の日々のご苦労も伝わってきます。
　過去に、コミュニケーションを取ることが難しい重度の方の入所施設で勤務していた時に考えていたことは、ここで自分や自分の家族が入所していたら・・ということを常に頭に入れ、人生を豊かに過ごせるよう可能な限りお手伝いをさせていただく、ということでした。同時に、自分（職員）が犠牲になればいい・・ではなく、疑問に思ったことはそのままにせず、ソーシャルアクションしていく必要がある、それが結果的に利用者さんへの利益につながるということです。
　障害児者支援は、困難なことがいろいろあると思いますが、自ら声を発することの難しい方々の代弁者に（なりきることはできませんが）なるべく、努力しなければと感じています。私はＯＰ活動を通して、職員の方々と共に、いろいろな問題や課題に取り組んでいけたらと思っています。

■　本業はどのような事をしているのですか？
　もとは、看護師として一般病院でも勤務していましたが、子どものころから“福祉”や“障害児者”に関心がありましたので、障害者施設で勤務も経験しました。その後、福祉も勉強したくて、今現在も大学院で学び中です。社会福祉士と精神保健福祉士を取得したのちは、スクールソーシャルワーカーをしています。看護師としては、保健センターで乳幼児健診の補助を行っています。

■　はまっている趣味はありますか？
　今は、筋トレです。運動すると、頭もすっきりした“気”がします。あとは、学生を終了したら、いろんな小説を読みたいです！！映画も観たい！旅行も行きたい！！！

大震災の中で…こんなときだからこそ、心に余裕を

　平成 23 年 3 月 11 日（金）、宮城県沖にてマグニチュード９の大地震が起こり、遠く離れた横浜でも大きく揺れ、１週間たった今でも停電や食糧などの不足への対応で、どの事業所もお忙しいことと思います。また、職員や利用者のご家族の中には、東北地方において大きな被害を遭われた方もいらっしゃるかもしれません。
　しかし私たちが心配なのはやはり利用者さんのことです。停電で暖房が入らないことによる健康上の影響はもちろん、精神的な影響も非常に気になります。毎日のように地震が起こり、予定が変更することも多く、テレビをつけると、ほとんどの局が常に震災に関するニュースを流し続けています。お話ができずに顔色も変えない利用者だとしても、その影響を受けないはずはありません。
　だからこそ、私たち職員は、自分の不安は胸の中にしまって、利用者さんが感じているはずの不安や恐怖を読み取り、慰め、癒し、時には励まして、復旧するときまで乗り切っていきたいと思います。そのためには、私たち自身が、自分や互いをケアし、心に余裕を持ちたいものです。頑張りましょう！

（松風学園　江原）

ごあいさつ

【Ｙネット推進部会会長挨拶】高橋典子氏

（Ｙネット推進部員　空とぶくじら社）



　この度、Ｙネット推進部会の部会長を努めることになりました空とぶくじら社の高橋典子です。施設間研修以外にも推進部会を盛り上げていきたいと思っていますので宜しくお願い致します。
　昨年度からＹネットに携わさせて頂き、多施設と一緒に利用者方の人権擁護を真剣に話し合ったり、課題を基に自施設へ持ち帰って一緒に考えたりと毎回刺激を受け勉強になることが多くあります。
　推進員は勤続年数が短い方が多い為、日々の利用者との葛藤や戸惑いなど仕事場では話しにくい内容も出てくるので施設関係なく一緒に考え、話せることが良い所です。以前はＹネットの存在すら知らず、あまり意識も持っていませんでしたが施設間研修を通じて第三者から見た人権擁護に対して意識を持つようになりました。
　その後Ｙネット推進員になり日々の勤務で人権侵害になっていないかを考えるようになりました。多くの協力を得ながら障害をもっている方のより良い生活を全体で考え、一歩ずつ前進していければと思っています。

【Ｙネット運営委員会代表挨拶】家田　満男氏

（社会福祉法人　偕恵園 障害者支援施設　偕恵 施設長）

　昨年までのＹネット運営委員会代表　しらねの里　正宗　忠施設長　に代わりまして、今年度から代表に選任された障害者支援施設　偕恵　の家田満男と申します。
　平成２１年４月から偕恵の施設長になり２年目にはいりました。Ｙネットのことも昨年運営委員会に出席させてもらい、その経緯などを聞きかじりながらの状態でもあったので、代表など受けて果たしてよいものかと思いもありますが、引き受けた以上はなんとか頑張っていきたいと思っています。



　横浜地区に来る前は、厚木市七沢にある神奈川県総合リハビリテーション事業団内の知的障害と身体障害の施設で仕事をしていました。そんなこともあって横浜地区の障害者福祉の情報はあまりなく、市独自の施策や予算配分等の取り組みなどの県域との違いも感じながら仕事をしているところです。
　定例で行なわれている運営委員会では、ＯＰさんから情報や意見交換の内容も、参考になる内容も多く新鮮な思いで聞かせてもらっています。
　現在、権利擁護の問題は、施設運営にとっても切り離せないものになっています。権利擁護に関係する福祉施設の不祥事の報道などがあると、あたかも社会福祉施設全体が閉鎖的で防衛的な存在であるかのごとき印象を強くさせてしまうのが心苦しく思います。たしかに、管理・運営面でそういう一面は否めないものの、これまで当事者の支援、福祉を支えてきた機能の一つが福祉関連施設であることにちがいはなく、大多数の福祉関連の支援者たちは、現在もこれからも当事者の援護者であるという自負心をもって仕事にあたってもらいたいと思っています。ただそれらを担う上では、経験的な実践・技術のみならず専門的な知識の積み重ねに裏打ちされた支援の中身（質）も要求されるのだと思います。常々に思うことは、福祉業界など人との関係性を重視する職場環境では、はたらく担い手である職員の心理的な側面（メンタリティー）を見逃がせないものだと思っています。人間的・社会的な貢献をうたう福祉という言葉に隠れてしまいがちですが、その視点を仕事をしていく環境（労働条件）や、日々対人面でのストレスにさらされているといった側面にあててみると、かなり厳しい状況に置かれているのも現実です。最近、やっとメンタルヘルスといった言葉も目にするようになりましたが、現場は、いつどういう事態が起こってもおかしくない過刺激な環境でもあります。職員が多少でもゆとりを持って働ける様な環境作りも欠かせないものだと思います。具体的な内容でいえば、予算面の後ろ盾が必要ですが、人的配置であり研修体制でもあります。
　さまざまな課題はかかえてはいますが、運営委員会として共有できる内容を深めていきながら、よりよい方向進める役割を微力ながらそそげればと思ってします。よろしくお願いします。

Ｙネット加盟施設一覧（平成22年11月現在）加盟施設 ： 12団体（14施設）

団体名（施設）	施設長名	推進員	担当OP	電話・FAX	住所・ホームページ
（福）恵和 恵和館	上條　健太郎	河合	大上　和成 加藤　正泰	電話 045-353-0661 FAX 045-353-0663	〒240-0035 保土ヶ谷区今井町 691 info@keiwa.net
（福）恵和 えみ	二宮　竜男	吉岡	石井　寛昭 植松　郁子	電話 045－352-9730 FAX 045－352-9730	〒240-0035 保土ヶ谷区今井町 670－1 emi@keiwa.net
（福）偕恵園 偕恵	家田　満男	淀川・田中杏 佐々木	中畝　冶子 鈴木　康昭	電話 045-951-3436 FAX 045-955-5261	〒241-0001 旭区上白根町 783 kaikei@sand.ocn.ne.jp
（福）偕恵園 横浜市 つたのは学園	多門　敏夫	中島 梅澤	加藤　正治 伊藤　みどり	電話 045-983-4308 FAX 045-983-4250	〒226-0026 緑区長津田 2327 k-tutanoha@themis.ocn.ne.jp
（福）光風会 のばら園	浜走　弘之	荒井 山田	田村　左千男 大貫　若菜	電話 045－742-1250 FAX 045－742-1251	〒240-0025 保土ヶ谷区狩場町 200－6 kouhu-nobara@abelia.ocn.ne.jp
（福）光風会 すみれ園	明　秀行	加藤・小西 牧田		電話 045-742-1252 FAX 045-742-1251	〒240-0025 保土ヶ谷区狩場 200－6 sumire_en_com@yahoo.co.jp
（福）白根学園 社会就労 センターしらね	菅野　善也	鈴木真 安倍	棹山　勝子 小林　芳雄	電話 045-955-1264 FAX 045-955-1008	〒241-0005 旭区白根 7-10-6 selp@shirane.or.jp
（福）白根学園 自立サポート センター歩	笠井　真人	榎本 嶋田	厚坂　幸子 貝瀬　隆男	電話 045-953-3307 FAX 045-953-7747	〒241-0005 旭区白根 7－31－7 seijin@shirane.or.jp
（福）白根学園 風の丘	飯山　文子	村松・中鉢 里井	厚坂　幸子 坂本　雅弥	電話 045-951-2620 FAX045-951-8649	〒241-0005 旭区白根 7－10－6 seijin@shirane.or.jp
（福）白根学園 光の丘		今泉 小野			
（福）白根学園 しらねの里	中里　誠	平林・都賀 岩崎	棹山　勝子 菊地　哲也	電話 045－954-5210 FAX 045－954-2337	〒241-0001 旭区上白根町 1092 shirane-sato@shirane.or.jp
（福）同愛会 空とぶくじら社	作山　良江	高橋 鈴木	東　奈央 吉濱　信恒	電話 045-382－1002 FAX 045-382－1076	〒241-0014 旭区市沢町 557－3 kujira@douaikai.com
横浜市 なしの木学園	加藤　慎二	丸山	高橋　正長 堀田　珠紀	電話 045－804-6981 FAX 045－803-8350	〒245-0017 泉区下飯田町 330 kd-nashinoki@city.yokohama.jp
横浜市 松風学園	荒木　和彦	望月・北川 丸小野	大上　和成 藤井　里絵	電話 045－802-0441 FAX 045－803-4963	〒245-0018 泉区上飯田町 1987 kf-syofu@city.yokohama.jp

※　賛助会員　（福）いずみ苗場の会 泉地域活動ホームかがやき

～編集後記～

大地震が起こり、皆さまご無事でいらっしゃいますでしょうか？

さて今回は、10月と3月の合併号として第７・８合併号を発行することが できました。今後もＹネットの活動を通信を通して、お伝えしていければと思っております。 [広報活動実行委員一同]